

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月 13日

事業所名 こども発達支援センター のぞみ (放デイ)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			活動によって部屋を分けている。	施設内だけでなく、公園等の外部施設を利用するなど適切な活動の場を検討していく。
	2	職員の配置数は適切である			配置3名に対して5～6名で対応している。	土曜日15名の利用者枠に5～6名の職員を配備していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			手すり、スロープ 障がい者用トイレ(遊戯室)に配備している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している			目標設定と振り返りは、毎回職員で情報共有を行っている。。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			保護者の意向等を把握するためアンケートを行う。	保護者の意向をふまえ、管理者、児童発達支援管理責任者を中心に業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			保護者に配布し、ホームページにも載せている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			内部研修(月1回) 自主外部研修	研修は、研修委員を決め 全職員が研修に参加するよう、年間計画を立てる。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している			保護者のニーズ・子どものニーズに寄り添う	十分なアセスメントを行い、児の課題に沿った個別支援計画を立てていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	児の把握をするためのアセスメントを行った。	必要に応じて、標準化されたアセスメントツールを使ってアセスメントを行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている			担当職員を中心としてチームで行っている。	職員同士の意見を出し合い、より良いプログラムが提案できるようにしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している			グループ活動の内容はグループごとに違う。	グループに応じて活動をチームで考えていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している				長期休みも日数、時間も変わらない。季節、行事など、対応していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している			一人ひとりの能力や特性、ニーズを考え作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している			事前にプログラムを立案し確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			全グループ支援終了後に全員で振り返り、共有している。	プログラム終了後の振り返りしながら、全員で子どもたちの様子を共有していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている			プログラム終了後、記録をとりながら、支援の検証をしている。スタッフで共有している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している			児発管を中心にモニタリング会議を行い、見直しをしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画の見直しを行っている			ガイドラインの周知徹底を心がけている。	管理者を中心に、ガイドラインの研修会を行い、実践していく。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている			必要に応じて対応している。	緊急の場合は、学校へ出向き 迅速に対応していく。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				対象者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			広島県東部幼児通園療育機関協議会など、福山・尾道・府中のセンターの方々と研修を受けたり、助言をいただいたりしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			管理者を中心に参加している。	地域自立支援協議会 児童支援部会では、管理者が部会長を務め 中心的役割を担う。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている			学校での状況を定期的に聞いている。	担任と連携が必要な時には電話連携や学校訪問をする
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			臨床心理士が、個人面談や、グループ面談で保護者支援を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている			契約時に、管理者が行っている。	利用者負担額は、改定があるごとに説明を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている			療育日だけでなく、電話での相談も受けている。	緊急の時は、すぐに対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			保護者会はないが、グループミーティングをおこなっている。	保護者同士の連携を大切にし、グループミーティングで話し合う機会を持つていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している			担当が窓口となり、苦情解決につとめている。	苦情があった場合は、苦情解決に向けて迅速に行動し、記録をとっていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している				
	35	個人情報に十分注意している				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている			今年度はコロナのため開催なし	地域の人との交流を図る場を設けていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			年に1回行う。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			年に1回以上行う。	管理者を中心に行い、理解を深めるよう虐待研修を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				現在、身体拘束の必要性のある対象者はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				食事提供無
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している				

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和3年 3月 15日

事業所名 こども発達支援センターのぞみ

保護者等数(児童数)25名 回収数 20名 割合 80%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	85%	15%				施設内の療育だけでなく、ユニットハウスや、園外等を利用し、活動の場を提供しています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	95%	5%				
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%					玄関前にスロープと、遊戯室に車いす用トイレを設置しています。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%					6か月に一度モニタリング・個別支援計画を説明し、保護者の方に同意を得ています。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100%					
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	30%	35%		35%	学校で交流している。	グループワークのコミュニケーション力を育てることに力を入れています。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%					
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	95%	5%			兄弟児の相談にも乗ってもらっている。	臨床心理士と個別の面談時間を設けたり、グループワークをする時間もあります。随時困りごとには対応しています。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	75%	25%			コロナ禍で、グループ面談への参加を警戒することもあった。	コロナ禍であり、面談に関して保護者の意見を尊重しました。また、個別面談に切り替えるなど対応しました。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	95%	5%			学校でのトラブル等に学校に行ってすぐに対応してください。	苦情解決につけては、迅速かつ丁寧に対応させていただいております。学校には校長の許可をいただき、支援させていただきます。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%					必要事項、相談等電話にて対応しています。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	90%	10%				年に数回、三原のぞみの会の新聞を皆様に配布し、自己評価の結果はお配りしております。ホームページにも掲載いたします。
14	個人情報に十分注意しているか	100%						
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	70%	30%				保護者の方には契約時のみの説明になっています。職員にはマニュアルを作成したものを各自が持ち、研修して読み込んでいます。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	50%	50%				年1回程度行っています。
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	100%				のぞみの利用が待ち遠しい、のぞみの日は普段しない朝の準備をし、楽しみにしている。	子ども達が楽しめるプログラム提案を行って参ります。
	18	事業所の支援に満足しているか	100%				利用時間がもう少し長くなるとよい。	今後 検討していきます。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。